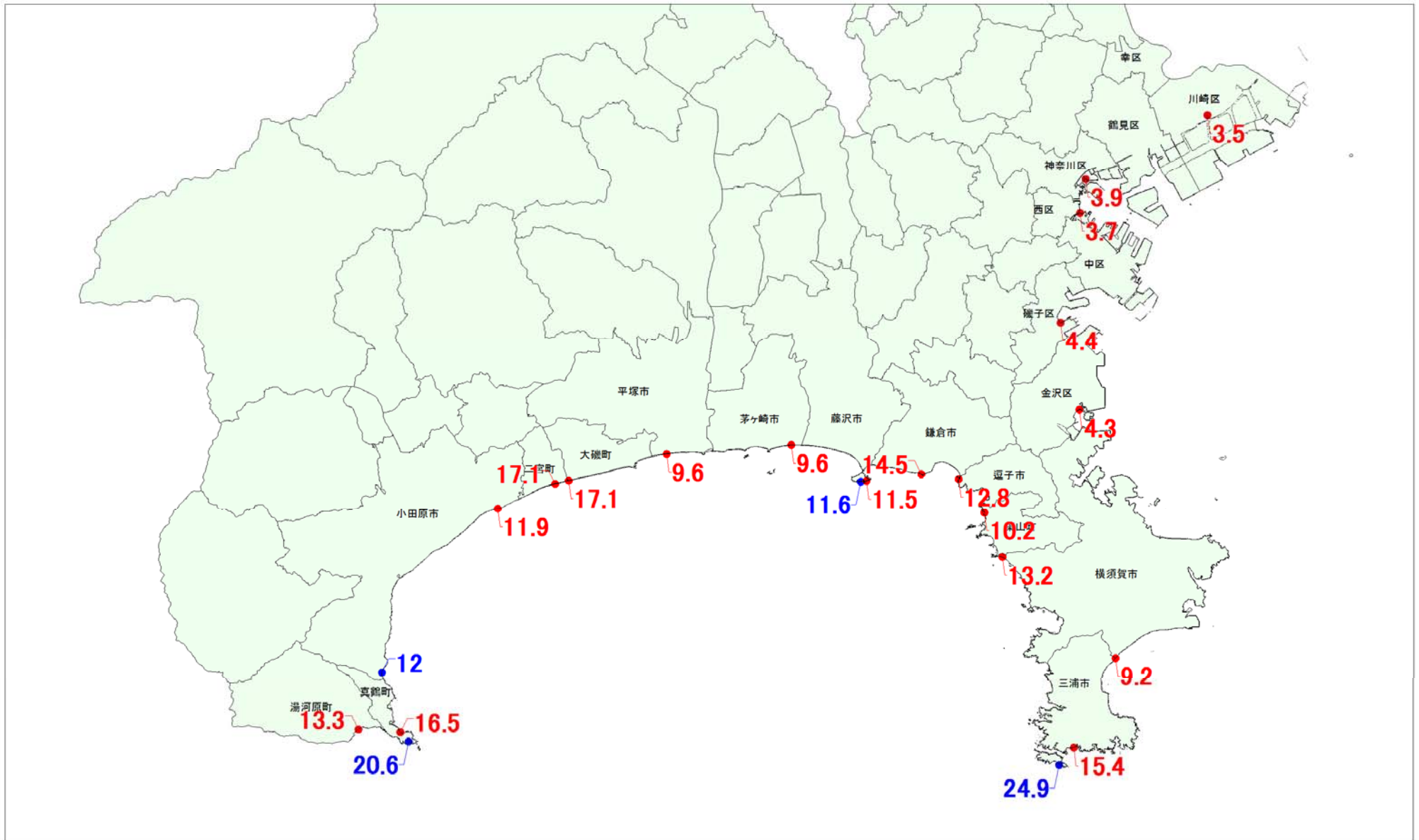
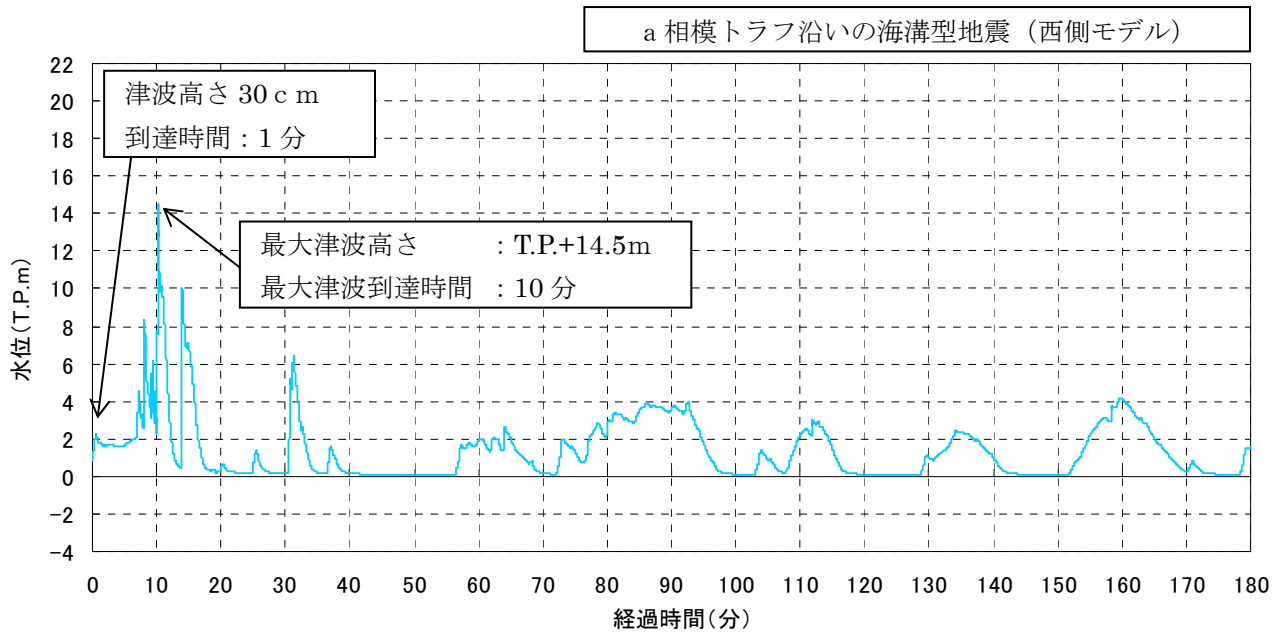


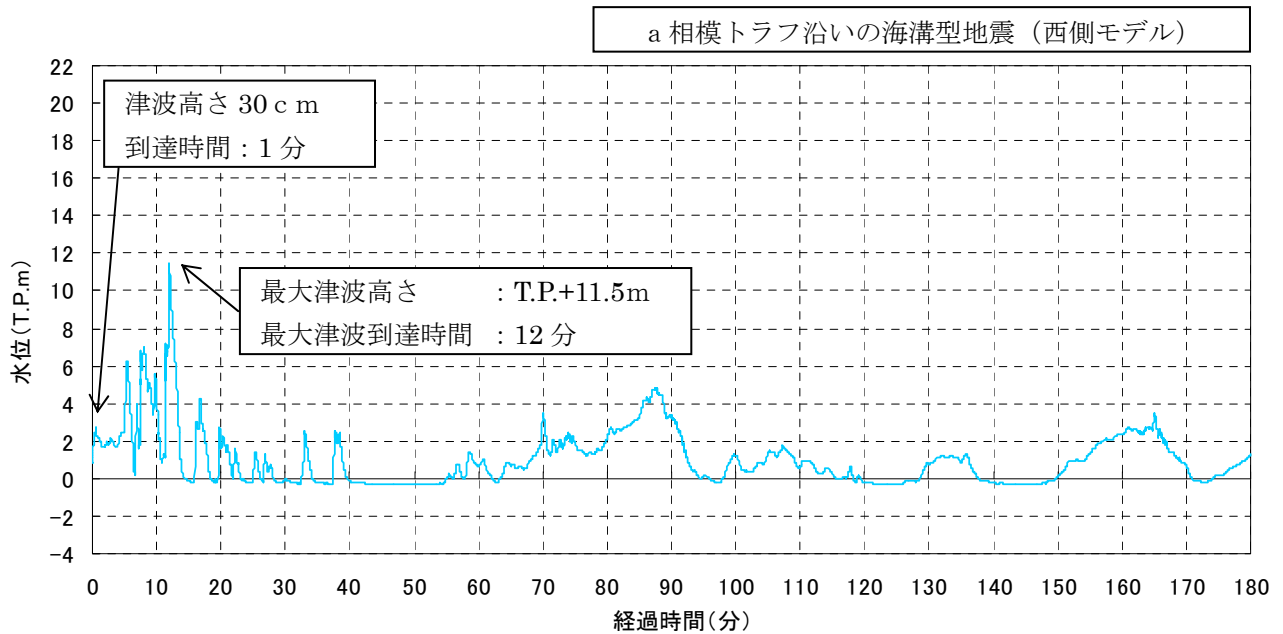
図8 市区町別の最大津波高さ発生箇所 赤字：海岸保全区域、港湾区域、漁港区域の場合 青字：がけ地等を含む場合（地震名は表1参照）



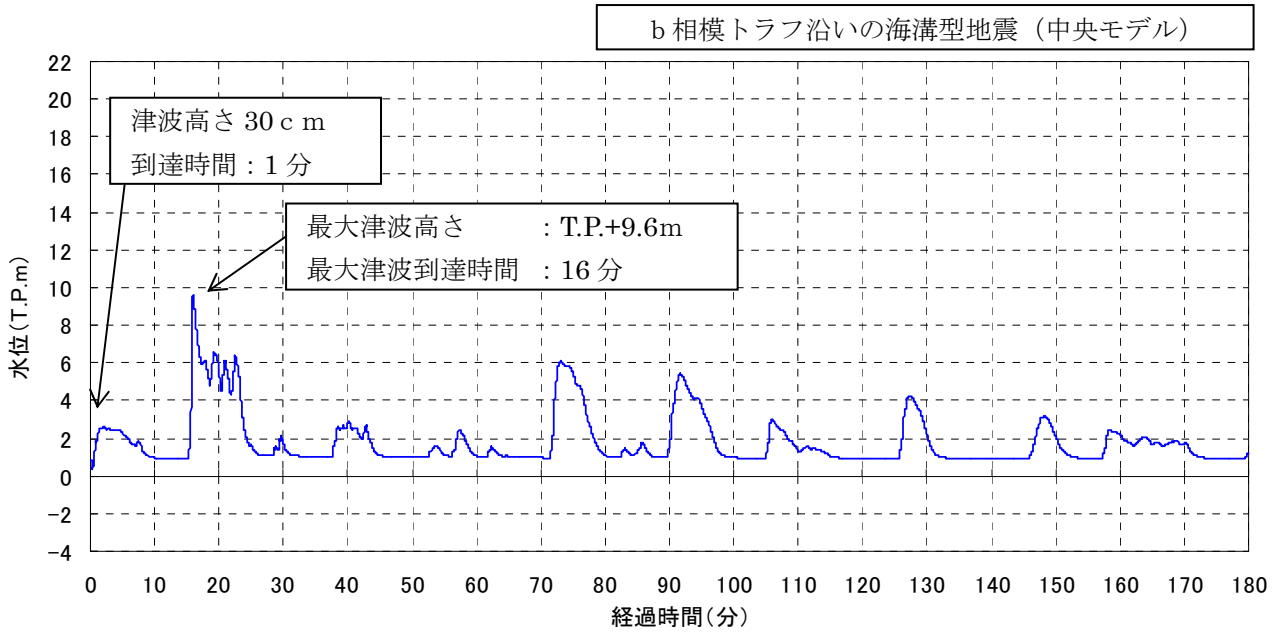
・鎌倉市



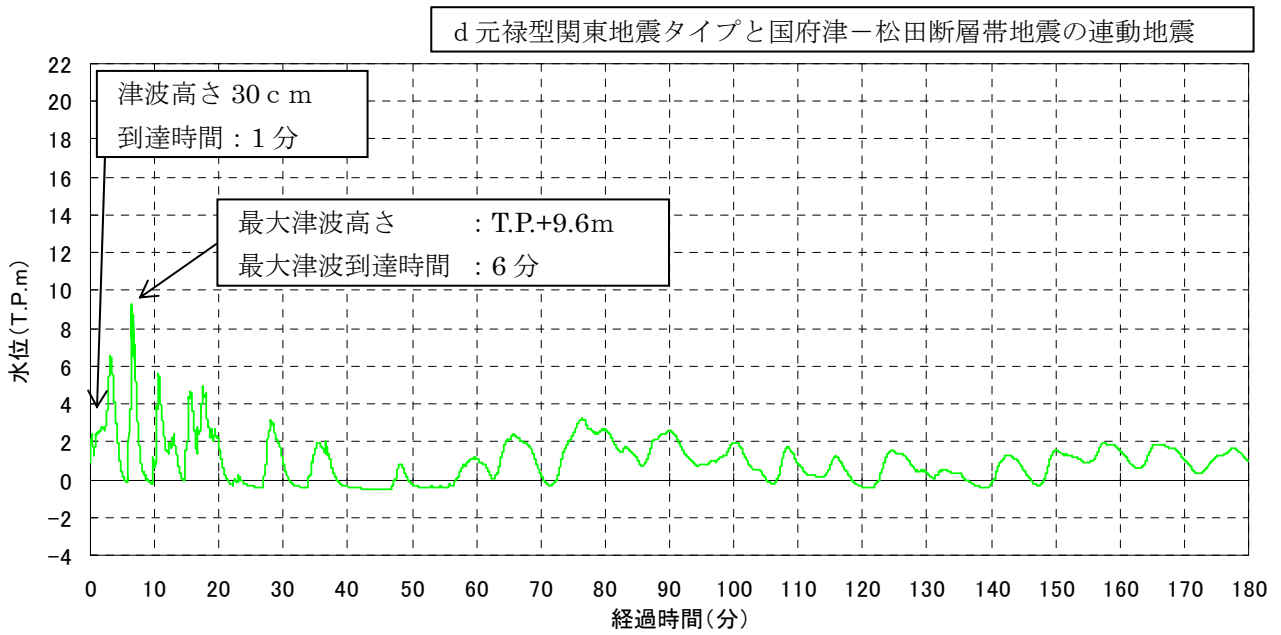
・藤沢市



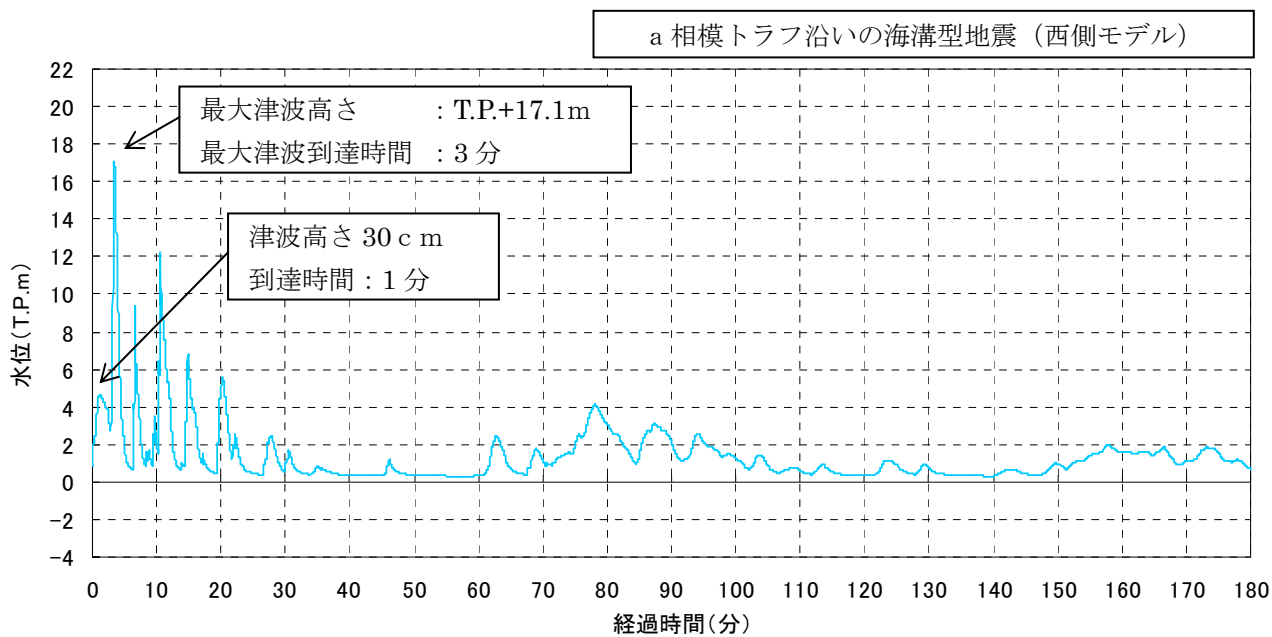
・茅ヶ崎市



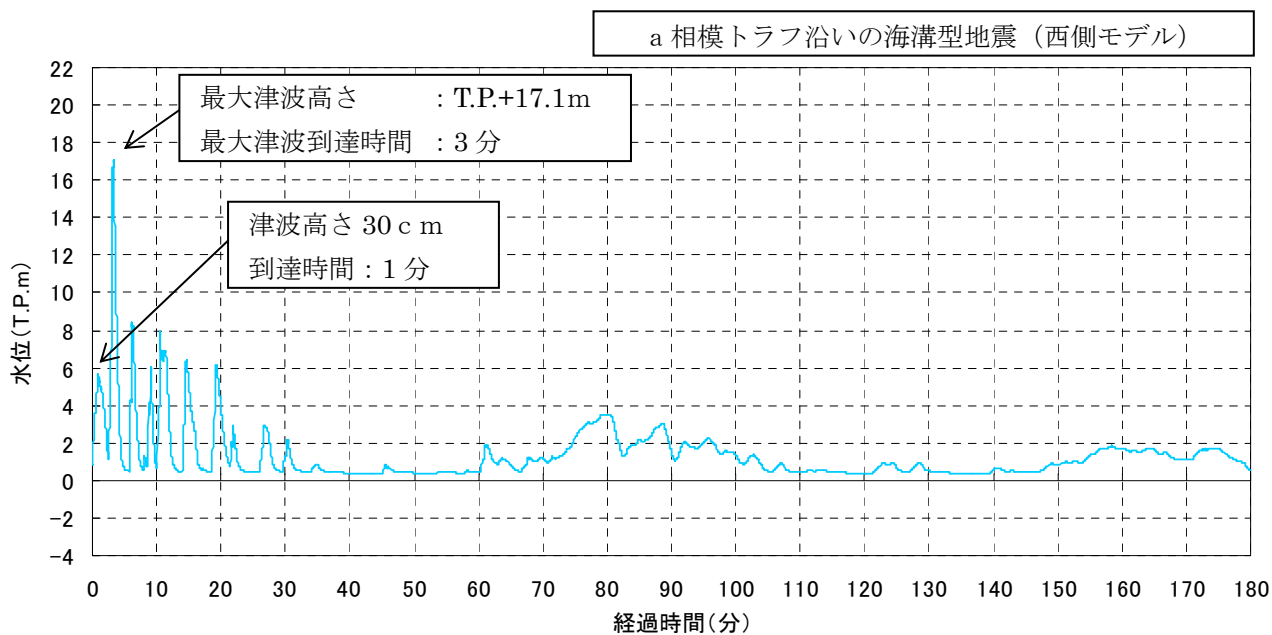
・平塚市



・大磯町

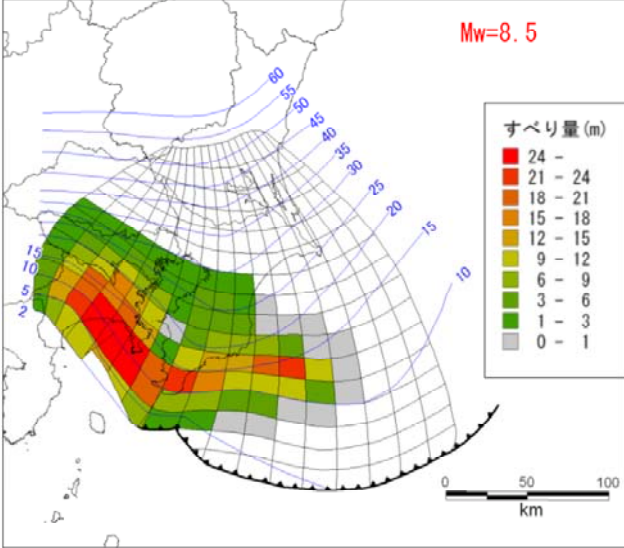
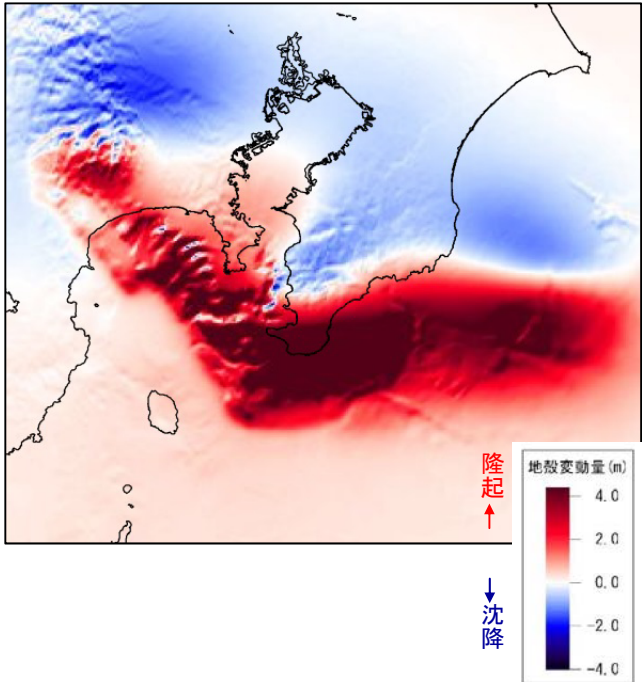


・二宮町

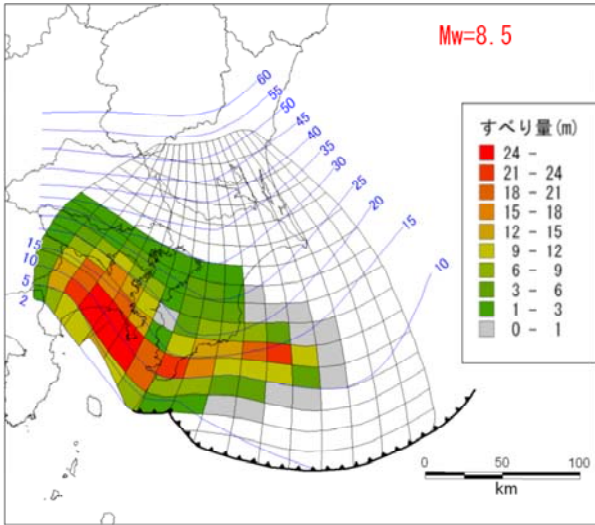
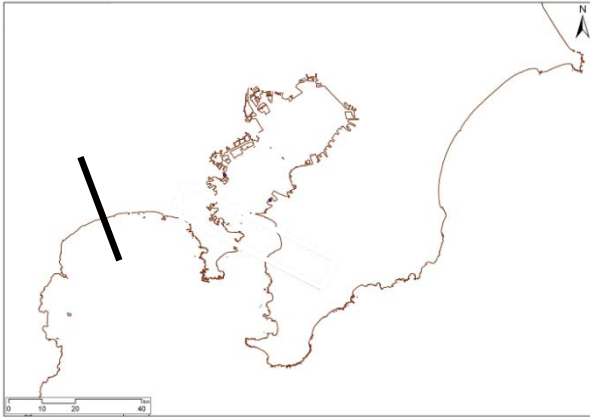
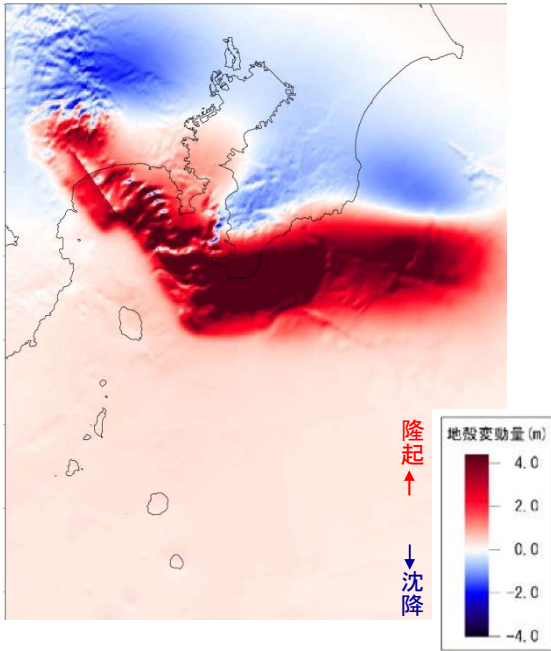


「国の検討会」から新たに示された地震	
対象津波	相模トラフ沿いの海溝型地震（a 西側モデル、b 中央モデル）
使用モデルの説明	<p>「国の検討会」が公表したモデルのうち、神奈川県沿岸に影響が大きいと考えられるケース1（西側モデル）、ケース2（中央モデル）を選定。報告書では、「フィリピン海プレートの形状や相模トラフ沿いの海底探査結果、フィリピン海プレート上面の微小地震活動等に基づき、最大クラスの震源断層域の範囲を求めた。東北地方太平洋沖地震の津波断層モデルを参考に、断層全体の約2割程度を大すべり域（平均すべり量の2倍のすべり量）に、そのトラフ軸側（10km以浅）に超大すべり域（平均すべり量の4倍のすべり量）を設定」とされている。</p> <p>・発生間隔：2千年から3千年若しくはそれ以上 ・前回発生時期：不明 ・切迫性（今後30年以内の発生確率）：評価なし</p> <p>※「国の検討会」の報告書による</p>
マグニチュード	Mw=8.7
断層モデル図	地盤の鉛直方向変動分布
a 相模トラフ沿いの海溝型地震（西側モデル）	<p>断層すべり量: すべり量 (m) の色分け (24-21, 18-21, 15-18, 12-15, 9-12, 6-9, 3-6, 1-3, 0-1)</p> <p>地殻変動量: 地殻変動量 (m) の色分け (4.0, 2.0, 0.0, -2.0, -4.0) 隆起 ↑ 沈降 ↓</p>
b 相模トラフ沿いの海溝型地震（中央モデル）	<p>断層すべり量: すべり量 (m) の色分け (24-21, 18-21, 15-18, 12-15, 9-12, 6-9, 3-6, 1-3, 0-1)</p> <p>地殻変動量: 地殻変動量 (m) の色分け (4.0, 2.0, 0.0, -2.0, -4.0) 隆起 ↑ 沈降 ↓</p>

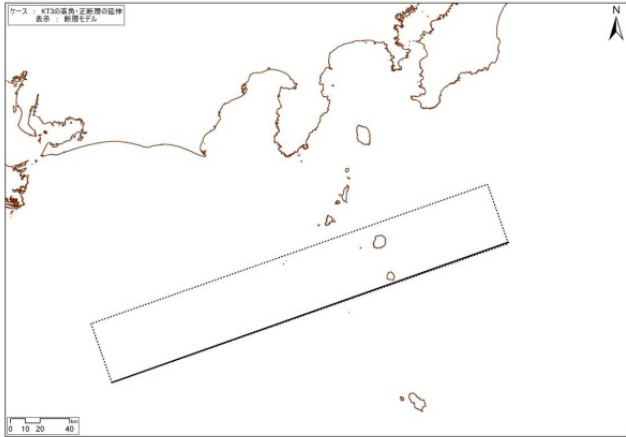
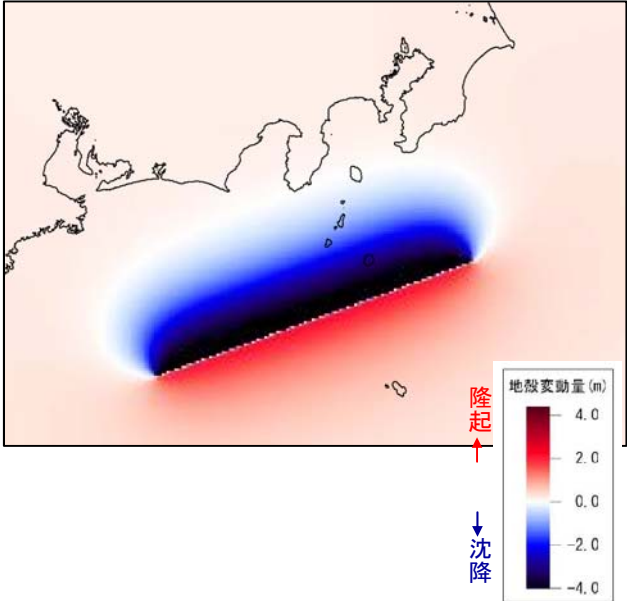
※地盤の鉛直方向変動分布は、地震による岩盤の破壊が終わった時点の変動量を示しています。そのため、破壊の過程では、図で隆起となっている地盤でも、沈降を生じることがあります。

「国の検討会」により津波断層モデルが変更された地震	
対象津波	c 元禄関東地震タイプ
使用モデルの説明	<p>「国の検討会」が公表したモデルのうち、神奈川県沿岸に影響が大きいと考えられるモデル。</p> <p>報告書では「地殻変動の資料に加え津波高の資料から津波断層モデルを推定した。今回の津波断層モデルは、モーメントマグニチュードはMw8.5で、既往の調査によるモーメントマグニチュードがMw8.1からMw8.4、津波マグニチュードがMt8.4であることと比べると、若干大きい」とされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生間隔：2千年から3千年 ・前回発生時期：1703年 ・切迫性（今後30年以内の発生確率）：ほぼ0% <p style="text-align: right;">※「国の検討会」の報告書による</p>
マグニチュード	Mw=8.5
断層モデル	地盤の鉛直方向変動分布
	

※地盤の鉛直方向変動分布は、地震による岩盤の破壊が終わった時点の変動量を示しています。そのため、破壊の過程では、図で隆起となっている地盤でも、沈降を生じることがあります。

「国の検討会」により津波断層モデルが変更された地震	
対象津波	d 元禄関東地震タイプと国府津-松田断層帯地震の連動地震
使用モデルの説明	<p>「国府津-松田断層は相模トラフ沿いのM8クラスの地震の何回かに一回の割合で同時に動くと考えられる」^{注)}とされているため、可能性がある連動ケースとして、内閣府から示された元禄関東地震タイプと、従来の国府津-松田断層帯の連動を設定した。</p> <p>^{注)} 国の地震調査研究推進本部のHP「地震動予測地図ウェブサイト全国版」 「http://www.jishin.go.jp/main/yosokuchizu/kanto/kanto.htm」に示されている。</p> <p>・発生間隔：評価なし ・前回発生時期：不明 ・切迫性（今後30年以内の発生確率）：評価なし</p>
マグニチュード	Mw=8.5クラス
断層モデル	地盤の鉛直方向変動分布
<p>元禄関東地震</p>  <p>すべり量(m)</p> <ul style="list-style-type: none"> 24 - 21 - 24 18 - 21 15 - 18 12 - 15 9 - 12 6 - 9 3 - 6 1 - 3 0 - 1 <p>0 50 100 km</p> <p>国府津-松田断層帯</p> 	 <p>隆起 ↑</p> <p>↓ 沈降</p> <p>地盤変動量(m)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4.0 2.0 0.0 -2.0 -4.0

※地盤の鉛直方向変動分布は、地震による岩盤の破壊が終わった時点の変動量を示しています。そのため、破壊の過程では、図で隆起となっている地盤でも、沈降を生じることがあります。

津波断層モデルに変更のない地震	
対象津波	e 慶長型地震
使用モデルの説明	<p>平成23年度に神奈川県沿岸に影響が大きいと考え、再現ではなく、発生が想定される地震として設定した県独自モデル。</p> <p>相田（1981）の1605年慶長東海地震の断層モデルを基に、本県にとって影響が大きく発生の可能性が考えられる地震として想定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生間隔：評価なし ・前回発生時期：不明 ・切迫性（今後30年以内の発生確率）：評価なし
マグニチュード	Mw=8.5
断層モデル	地盤の鉛直方向変動分布
	

※地盤の鉛直方向変動分布は、地震による岩盤の破壊が終わった時点の変動量を示しています。そのため、破壊の過程では、図で隆起となっている地盤でも、沈降を生じることがあります。